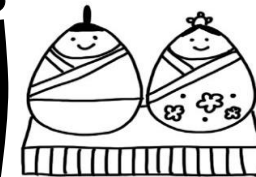




3月 きゅうしょくだより



まだまだ寒い日が続きそうですが、今年度も残すところあと1か月。1か月後には子どもたちは卒園・進級します。子どもたちは1年間の様々な行事や活動を通して体も心も大きくなり、たくさんの思い出を作ることができたと思います。給食を食べる量も増え、残さずに食べてくれることも多くなったので、1年間でこんなに成長したんだなあ、と本当にうれしく思います。

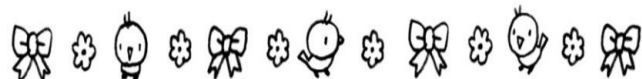
3月3日はひな祭りです。桃の花が咲く時期でもあるので“桃の節句”とも言われます。元は中国から伝わった風習で、3月の最初の巳(み)の日にお祓いをし、身に付いた汚れを洗い流し、身を清めて災いや病気を免れるために行われていました。この風習が奈良時代に日本に伝わり、紙や草で人形を作り自分の汚れを移し、川や海などに流す“流し雛”という風習になりました。その後、作った人形を飾るようになり、貴族の娘たちの“ひいな遊び”と結びついて、ひな人形を飾るようになったそうです。





ひな祭りの食べ物について

先日は給食参観に参加していただきありがとうございました。参観で試食していただいた筑前煮の感想もたくさん書いていただきありがとうございました。

「家では食べないのに、保育園ではおかわりをしているのを見て家でも食べてほしいなあと思いました」「たくさんの野菜がはいっているのに嫌がらず食べていました」「お友だちと楽しそうに食べる様子を見てうれしく思いました」
など、おうちはまた違った様子を見ていただけましたと思います。



<p>ひしもち</p> <p>緑・白・桃の餅を三段に重ねてひし形に切ったものです。ひな祭りに供えるようになったのは江戸時代後期からと言われています。緑は“春先の芽吹き、もえる若草”白は“清浄の表し、純白の雪”桃は“健康の祝い”を表しています。</p> 	<p>はまぐり</p> <p>桃の節句にははまぐりのお吸い物を飲んでお祝います。2枚の貝殻がぴったり合い他の貝殻とは絶対に合わず合うのはひと組だけしかないので、将来良い人と巡り合えますようにとの幸せを祈って飲まれます。</p> 
<p>白酒(しろざけ)</p> <p>もち米のこうじを酒に混ぜて発酵させて造ります。桃の花は白いものがないので、白酒を配して赤と白にして供えたという説があります。長寿を祈る意味もあります。</p>	<p>ひなあられ</p> <p>野外で神様をおまつりする際の保存食として作られたのが始まりと言われています。“春夏秋冬”を表す桃・緑・黄・白の4色が元々の色だったようです。</p>